

有害フランクton情報 (平成 30 年度 - No. 9)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	12月 第1回	内湾 (8 地点)	12/3	内房 (7 地点)	12/3
		12月 第2回	内湾 (8 地点)	12/17	内房 (7 地点)	12/18
	貝類漁場内	—				

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- マガキの着色現象の原因プランクトンとされるクリソクロムリナ属が、12/3 に羽田沖で 446 細胞/mL 確認されました。その後、12/7 木更津地区マガキ、12/13 木更津・富津地区アサリの調査検体に着色はみられず、12/17 には最高密度が 0.05 細胞/mL (検出限界程度) まで減少しました。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上) は確認されませんでした。
※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL を超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最高密度は、ディノフィシス アキュミナータが 12/3 にアクア北で 8.25 細胞/mL でした。なお、同種は 5/22 に羽田沖で 19.35 細胞/mL まで増加しましたが、被害情報はありませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが 12/17 に千葉灯標で 0.20 細胞/mL でした。(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたフランクtonの優占種

12/3	内湾	珪藻	キートセロス属, シュードニッチア属 ハプト藻	クリソクロムリナ属 (図 1)
	内房	渦鞭毛藻	プロロセントラム	ミカンス 珪藻
			キートセロス属, スケルトネマ属 ハプト藻	クリソクロムリナ属
12/17	内湾	渦鞭毛藻	プロロセントラム	ミカンス (図 2)
12/18	内房	渦鞭毛藻	プロロセントラム	ミカンス 珪藻
			キートセロス属, スケルトネマ属	



図 1 クリソクロムリナ属 (12/3 アクア南)



図 2 プロロセントラム ミカンス (12/17 アクア北)

